VOX

Valvetronix

取扱説明書

VT15
VT30
VT50
VT100

Ⓙ ②

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

WARNING:
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.

CAUTION
RISK OF ELECTRIC SHOCK
DO NOT OPEN

AVERTISSEMENT:
RISQUE DE CHOC ÉLECTRIQUE—NE PAS OUVRIR.

注意　感電の恐れあり、キャビネットをあけるな

マークには次のような意味があります。

このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。

このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△ 記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⃠ 記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	● 記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

⚠警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、
死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- **電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。**
- **電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。**
  感電やショートの恐れがあります。
- **本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。**

- **次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。**
  ○ 電源コードやプラグが破損したとき
  ○ 異物が内部に入ったとき
  ○ 製品に異常や故障が生じたとき
  修理が必要なときは、コルグ・サービス・センターへ依頼してください。

- **本製品を分解したり改造したりしない。**

- **修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対にしない。**
- **電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものをのせない。**
  電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- **大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。**
  大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。
  万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- **本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。**
- **温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。**
- **振動の多い場所で使用や保管はしない。**
- **ホコリの多い場所で使用や保管はしない。**

- **風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。**

- **雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。**
- **本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。**
- **本製品に液体をこぼさない。**

- **濡れた手で本製品を使用しない。**

⚠注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性
または物理的損害が発生する可能性があります

- **正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。**
- **ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。**
  ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
  本製品の磁場によってテレビ等の故障の原因になることがあります。
- **外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。**
- **電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。**

- **本製品を使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。**
  電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていません。

- **付属の電源コードは他の電気機器で使用しない。**
  付属の電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- **他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。**
  本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- **スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。**
  故障の原因になります。
- **外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。**
- **不安定な場所に置かない。**
  本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- **本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。**
  本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- **本製品の隙間に指などを入れない。**
  お客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- **地震時は本製品に近づかない。**
- **本製品に前後方向から無理な力を加えない。**
  本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

＊ すべての製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

目 次

はじめに 4
- ようこそ! 4
- おもな特長 4
- 信号経路 5
- Valve Reactor（バルブ・リアクター）技術とは? 5

クイック・スタート編 6
- セットアップ 6
- プリセット・プログラムのサウンドを聞く 7
- ユーザー・プログラムのサウンドを聞く 7

各部の名称と機能 8
- A. トップ・パネル 8
- B. リア・パネル 11

3つの動作モードについて 13
- プリセット・モード（プリセット・プログラムの呼出し）........ 13
- マニュアル・モード 13
- チャンネル・セレクト・モード（ユーザー・プログラムの呼び出し）... 14

音作りと保存 15
- 音作り 15
- ノイズ・リダクションの調整 16
- プログラムを保存する 16
- プログラムに保存されている設定（オリジナル・バリュー）を確認する 17
- 工場出荷時の状態に戻すには 17

フット・スイッチ（VOX VFS5）を使う 18
- チャンネル・セレクト・モードでの動作 18
- プリセット／マニュアル・モードでの動作 18

アンプ／エフェクトの説明 19
- アンプ・モデル 19
- エフェクト 22
- リバーブ 24

故障とお思いになる前に 25

仕様 27

ソング・プログラム・リスト 28

プログラム・シート 29

はじめに

ようこそ!

このたびはVOX Valvetronixアンプ VT15/30/50/100をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

本製品を末永くご愛用いただくためにも、取扱説明書をよくお読みになって、正しい方法でご使用ください。

それでは、本機の様々な素晴しいギター・サウンドをご堪能ください。

おもな特長

❐ 本機はValve Reactor技術を採用し、通常プリ・アンプで使われている小型３極真空管12AX7（ECC83）を使ったパワー・アンプ回路を搭載することによって、「本物のチューブ・アンプ・サウンド」を作り出し、オリジナル・アンプの感触やトーンを生み出します。

❐ 高度なモデリング・テクノロジーによるアンプ・モデルを22種類搭載しています。

❐ ハイクオリティなエフェクトを12種類内蔵しています。この内、リバーブ・エフェクトは常時使用可能、他の11種類のうち3種類は複合エフェクトとなっており、最大3つのエフェクトを同時に使用することができます。その他ノイズ・リダクションを同時に使用できます。

❐ アンプやエフェクトを駆使したサウンドをプログラムとして8プログラム（2バンク×4チャンネル）に保存することができます。これらはトップ・パネルのスイッチや、リア・パネルに接続したフット・スイッチで、演奏中にも簡単に切り替えることができます（チャンネル・セレクト・モード）。また、各アンプ・モデルにつき、ベーシック、エフェクテッド、ソングの各3プログラム（計66プログラム）のプリセット・プログラムが用意されています（プリセット・モード）。ソング・プログラムでは、著名なギタリストの演奏するヒット曲の音色を再現しています。

❐ マニュアル・モードを装備し、通常のギター・アンプのように使用することができます。ツマミが指している物理的な位置が、そのままサウンドに反映されます。

❐ オプション（別売）のフット・スイッチ（VOX VFS5）を接続して、足元でプログラムの切り替えやエフェクトのオン/オフなどができます。

❐ パワー・レベル・コントロールを装備し、パワー・アンプの出力ワット数を調整することができます。マスター・ボリュームを最大にして、Valve Reactorパワー・アンプに負荷をかけた状態でも、サウンドを損なうことなく音量を調整することができます。

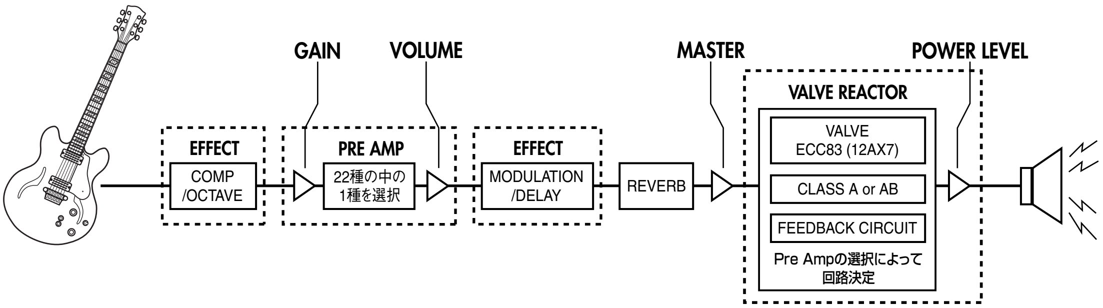
❐ エクスターナル・スピーカー・アウト端子を装備（VT50、VT100）し、お気に入りのギター・スピーカー・キャビネット（8Ω）を接続することができます。

❐ エフェクト・センド/リターン端子を装備（VT100のみ）し、外部エフェクターをループ接続することができます。

信号経路

本機に入力された信号は、以下の順序で通過していきます。

「各部の名称と機能」（p.8）の説明と照らし合わせてご覧ください。



Valve Reactor（バルブ・リアクター）技術とは?

本機VOXコンボのパワー・アンプを駆動するValve Reactor回路は、斬新な技術を基に作られました。音作りとトーン・シェーピングのほとんどはデジタル領域で行いますが、Valve Reactorパワー・アンプは100%アナログです。ギター信号がアナログ領域であるパワー・アンプ段を通過することによって、モデルとなったオリジナル・アンプの感触や、トーンを作り出す上で重要な役割を果たすことになります。

Valve Reactorのパワー段は真のチューブ、プッシュ/プル式パワー・アンプのミニチュア版です。これは12AX7チューブ（デュアル三極管、つまり2つの真空管を1つにしたもの）を使用し、出力トランスを搭載した真のチューブ・アンプと似ています。真空管を、出力トランスで直接スピーカーに接続するのではなく、アウトプット・トランスをソリッドステート部品でエミュレートしたバーチャル・アウトプット・トランスで変換し、最終出力段の回路を特殊設計したVariAmpパワー回路に接続します。これによりパワー段の出力量を、最小出力から最大出力まで連続可変を可能とします。

このVariAmpパワー回路段は完全に透明、つまり信号を変化させないので、出力されるトーンは純粋にチューブ・アンプのサウンドとなります。また、従来のチューブ・アンプに見られるワイドなダイナミックレンジもそのまま保持されます。このダイナミックレンジはソリッドステートのアンプではなかなか出せない特性で、同じ出力の仕様でもソリッドステート・アンプに比べてチューブ・アンプの方がパワフルに聞こえるのは、この特性のおかげです。

Valve Reactorパワー・アンプの出力は、接続されているスピーカー・システムの絶えず変化しているインピーダンス曲線を「読み取り」、この情報を真空管にフィードバックするように設計されています。この情報によって、アンプのチューブ段での動作がスピーカー負荷（インピーダンス）に応じて変化します。これもまた、真のチューブ・アンプのサウンドを形成する大切な要因となっています。

生き生きとしたチューブ・サウンドを生み出すだけでなく、モデルとなったアンプのフルチューブ・パワー段に独特の「回路特性」をシミュレートすることができます。この特性とは、A級、AB級、パワー出力などです。このような特性（ただしユーザーが設定するパワー出力は除く）を調整することにより、アンプ・モデルの一つ一つのサウンドが忠実に再現できるのです。米国特許取得済みのこのパワー・アンプ技術は、VOX Valvetronixアンプだけのものです。

クイック・スタート編

新しいアンプを一刻も早く使ってみたい人のために、このクイック・スタート編を用意しました。

また本書には、Valvetronixアンプを最大限に活用する上で役に立つ内容が記載されていますので、クイック・スタート編でとりあえず弾いてみてホッとしたら、必ず本書の残りをお読みください。

ヒント: 「各部の名称と機能」(p.8)にトップ・パネルとリア・パネルの図がありますので、これらを見ながら操作してみてください。

セットアップ

1. 本機の[MASTER]ボリュームを最小レベルに設定します。

2. 付属の電源コードをリア・パネルのAC電源端子に接続してから、電源コードのもう一端をコンセントに接続します。

電源コードの接続について

1) 本機の電源がオフになっていることを確認します。
2) 最初に付属の電源コードを本機リア・パネルのAC電源端子に接続します。
3) 付属の電源コードには、アース端子がついています。感電と機器の損傷を防ぐためにアース接続を確実に行って、コンセントに接続してください。

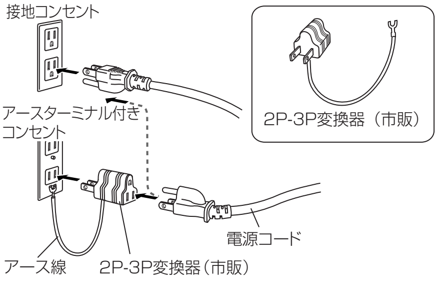
注意: 電源は必ずAC100Vを使用してください。

接地コンセントに接続する場合は、プラグを直接コンセントに差し込んでください。

注意: 電源コードは必ず付属のものをお使いください。他の電源コードを使用した場合、故障などの原因となります。

アースターミナル付きコンセントに接続する場合は、2P-3P変換器(市販)をプラグに付け、アース線を接続した後にコンセントに差し込んでください。

注意: アースターミナル付きコンセントでは、必ずアース端子を先に接続してからコンセントにプラグを差し込んでください。コンセントから外す場合は、必ずプラグを先に抜いてからアースを外してください。接続方法が分からないときは、コルグお客様相談窓口にご相談ください。



3. ギターに接続したケーブルをトップ・パネルのINPUT端子に接続します。

4. [POWER]スイッチをオンにし、電源を入れます。

5. [MASTER]ボリュームをゆっくりと上げて、音量を調整します。

ヒント: リア・パネルの[POWER LEVEL]コントロールは、パワー・アンプの出力レベルをコントロールします。パワー・アンプの歪み量を維持したまま音量の調整が行なえます。

注意: 真空管が温まるまでの数秒間、音が出ない場合があります。これは故障ではありません。

プリセット・プログラムのサウンドを聞く

1. トップ・パネルの[PRESET]スイッチを押します。
PRESET LEDが点灯します（プリセット・モード）。

2. [AMP]セレクターを回してアンプ・モデルを選択します。
各アンプ・モデルの代表的なサウンドに設定されたプリセット・プログラムが呼び出され、GAIN、VOLUME、TREBLE、MIDDLE、BASSやエフェクト等の設定が自動的に切り替わります。

ヒント: アンプ・モデルは、2つのバンクにそれぞれ11種類（計22種類）格納されています。バンクを切り替えるにはAMPスイッチを押します。押す度にAMP LEDの色が緑、または赤に変化し、アンプ・バンクA、Bが切り替わります。22種類の各アンプ・モデルには、それぞれ3つのプリセット・プログラムが格納されています（計66プログラム）。プリセット・モードで[PRESET]スイッチを押す度にPRESET LEDの色が緑、橙、赤と変化し、プリセット・プログラム1（ベーシック）、2（エフェクテッド）、3（ソング）が切り替わります。
ソング・プログラムでは、著名なギタリストの演奏するヒット曲の音色を再現しています。

ユーザー・プログラムのサウンドを聞く

1. トップ・パネルの[CHANNEL]スイッチ（[CH1]、[CH2]、[CH3]、[CH4]のいずれか）を押します。
押した[CHANNEL]スイッチのLEDが点灯し、各チャンネルに設定されているユーザー・プログラムが呼び出されます（チャンネル・セレクト・モード）。

ヒント: ユーザー・プログラムは、2つのバンクにそれぞれ4チャンネル（計8プログラム）格納されています。バンクを切り替えるには、[CHANNEL BANK]スイッチを押します。押す度にBANK LEDの色が緑、または赤に変化し、チャンネル・バンク1、2が切り替わります。

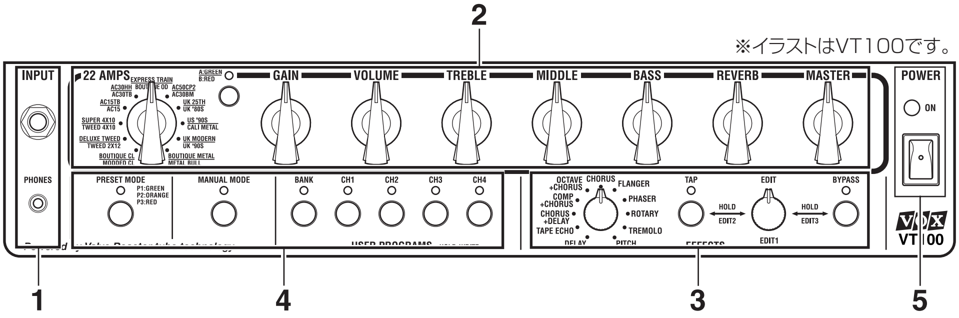
ヒント: ユーザー・プログラムには、好みの音色を記憶させることができます。詳しくは「プログラムを保存する」（p.16）を参照してください。

各部の名称と機能

本章ではValvetronixアンプのトップ/リア・パネル上のスイッチや端子類について説明します。

A. トップ・パネル

※イラストはVT100です。



1. INPUT/PHONESセクション

INPUT端子

ギターを接続します。

PHONES端子

ミキサーやレコーディング機器等へ直接出力するときや、ヘッドホンを使用する場合にこの端子に接続します。この端子から出力される信号は、ValveReactorパワー・アンプの直前から取り出し、ギター・アンプのキャビネット特性が付加されます。

注意: この端子に接続すると内蔵スピーカーから音は出ません。

2. アンプ・セクション

アンプの設定を行ないます。VOXの伝統を受け継いだ「チキン・ヘッド」の形をしたポインター（ツマミ）を採用しました。

[AMP]スイッチ/セレクター、LED

アンプ・モデルを選びます。

[AMP]スイッチを押す度にAMP LEDの色が緑、または赤に変化し、アンプ・バンクA、Bが切り替わります。[AMP]セレクターで各アンプ・バンク内のモデルを選択します。

プリ・アンプ、パワー・アンプの動作（A、AB級）、トーン・コントロールの特性や回路上の配置は、ここで選んだアンプのモデルに従って切り替わり、それぞれのアンプ特有の動作となります。

プリセット・モード（PRESET LEDが点灯しているとき）では、各アンプ・モデルの代表的なサウンドとエフェクトの設定を含めたプリセット・プログラムを呼び出すことができます。

[GAIN]コントロール
選択したアンプ・モデルのプリ・アンプ・ゲインを調整します。

[VOLUME]コントロール
選択したアンプ・モデルのボリュームを調整します。

[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]コントロール
高音、中音、低音の音色を調整します。選択したアンプ・モデルによって、異なった音色変化になります。

[REVERB]コントロール
リバーブのミックス量を調整します。

[MASTER]ボリューム
プリ・アンプからValve Reactorパワー・アンプに出力するボリュームを調整します。この設定によってValve Reactorの歪み量が変化します。

> **注意:** [MASTER]ボリュームの設定はプログラムされません。

> **注意:** Valve Reactorの歪み量は、GAINコントロールによっても変化します。設定によっては、ほとんど歪まなくなります。

3. エフェクト・セクション
エフェクト、ノイズ・リダクションの設定を行ないます。各エフェクトの詳細は「アンプ/エフェクトの説明」(p.19)を参照してください。

[EFFECTS]セレクター
エフェクトのタイプを選択します。各エフェクトのパラメーターは、[TAP]スイッチや[EDIT]ツマミを使用して調整できます。エフェクト・タイプを変更すると各エフェクトのパラメーター設定が初期化され、エフェクト・バイパスが解除されます。

[EDIT]ツマミ
各エフェクトのパラメーターを調整します。以下のような[TAP]、[BYPASS]スイッチとのコンビネーション操作により3種類のパラメーターを調整します。(BYPASS LEDが消灯時)

EDIT1: (スイッチを押さずに)[EDIT]ツマミを回す。
EDIT2: [TAP]スイッチを押しながら[EDIT]ツマミを回す。
EDIT3: [BYPASS]スイッチを押しながら[EDIT]ツマミを回す。

また、BYPASS LEDが点灯しているとき(エフェクトのバイパス時)に、[TAP]スイッチを押しながら[EDIT]ツマミを回してノイズ・リダクションの感度を調整します。

> **注意:** BYPASS LEDが点灯しているときは、エフェクト・パラメーターの調整はできません。

[TAP]スイッチ、LED

CHORUSやFLANGERなどモジュレーション系エフェクトのスピードと、DELAY、TAPE ECHOエフェクトのタイムなどを設定します。スイッチを2回押した間隔がタイムとして設定されます。設定されているスピード、タイムにあわせてLEDが点滅します。

ヒント: 曲のテンポに合った正確なタイムを設定するには、曲の拍子に合わせてスイッチを数回押してください。

ヒント: スピードやタイムは、[TAP]スイッチを押しながら[EDIT]ツマミを回す（EDIT 2）ことで調整することもできます。

注意: BYPASS LEDが点灯しているときは、[TAP]スイッチによるタイム設定はできません。TAP LEDは消灯します。

[BYPASS]スイッチ、LED

エフェクトを使用しないときは、このスイッチを押してエフェクトをオフ（バイパス）にします。バイパス中はLEDが点灯します。

注意: このスイッチを押してもリバーブはバイパスされません。リバーブを使用しないときは、[REVERB]ツマミを左に回しきってミックス量を0にしてください。

注意: BYPASS LEDが点灯しているときは、エフェクト・パラメーターの調整はできません。

ヒント: バイパス中に[TAP]スイッチを押しながら[EDIT]ツマミを操作すると、ノイズ・リダクションの感度を調整できます。

ヒント: バイパスの設定は、モードやプログラムを切り替えたり、電源をオフにしても記憶しています。

4. プリセット/マニュアル/チャンネル・セクション

[PRESET]スイッチ、LED

プリセット・モードへの切り替えと、プリセット・プログラム（P1・ベーシック、P2・エフェクテッド、P3・ソング）の選択に使用します。プリセット・モードは、[AMP]スイッチ/セレクターによって各アンプ・モデルの代表的なサウンド（プリセット・プログラム）を呼び出すモードです。プリセット・モードのときLEDが緑、橙、赤のいずれかの色で点灯します。

[MANUAL]スイッチ、LED

マニュアル・モードに切り替えます。マニュアル・モードでは、[EDIT]ツマミを除く、すべてのツマミの位置がそのままサウンドに反映されます。通常のギター・アンプと同じ感覚で本機を扱うことができます。マニュアル・モードのときLEDが点灯します。

[BANK]スイッチ、LED

チャンネル・バンクを選択します。チャンネル・セレクト・モードのとき、バンクLEDが緑、または赤色に点灯します。新しいプログラムを別のバンクに保存するときは、[BANK]スイッチを０.５秒以上（BANK　LEDが点滅を始めるまで）押し続けて保存先を選択します（P.16「プログラムを保存する」）。

[CHANNEL]スイッチ、LED

チャンネルを選択します。選択されているチャンネルのLEDが点灯します。新しいプログラムを保存するときには、保存先となる[CHANNEL]スイッチを１秒以上押し続けます。

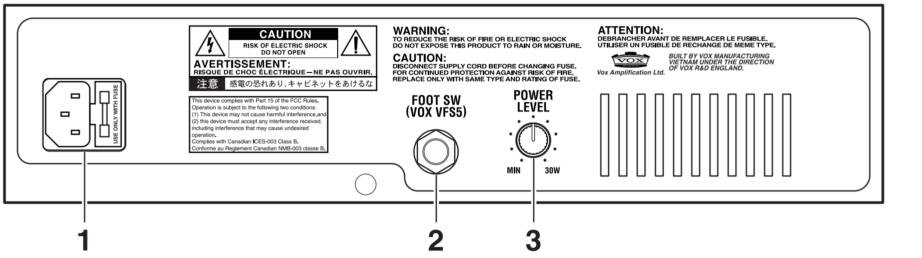
5.　パワー・スイッチ

[POWER]スイッチ

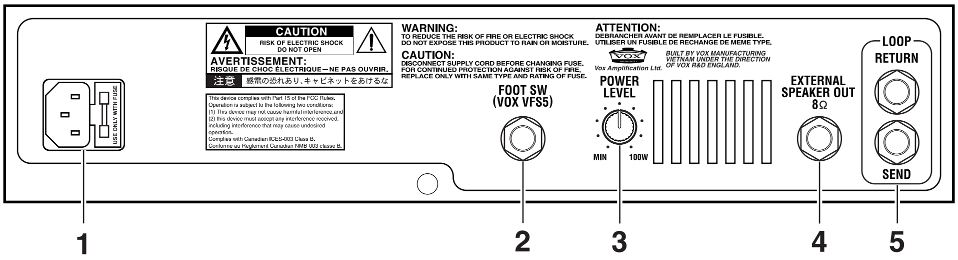
電源スイッチです。オン時はスイッチの上のランプが点灯します。

B. リア・パネル

VT15/VT30　　※イラストはVT30です。



VT50/VT100　　※イラストはVT100です。



（VT100のみ）

1. AC電源端子

付属の電源コードを接続します。

2. FOOT SW（フット・スイッチ）端子

オプション（別売）のフット・スイッチ（VOX VFS5）を接続して、演奏中にプログラムの切り替えをします。

注意: FOOT SW端子へ接続、取り外しは電源オフの状態で行なってください。電源オンのまま抜き差しすると、誤動作や故障の原因となります。

3. POWER LEVEL（パワー・レベル）コントロール

パワー･アンプの出力ワット数を調整します。

VT15: 0.2W以下～15W
VT30: 0.2W以下～30W
VT50: 0.2W以下～50W
VT100: 0.2W以下～100W

注意: パワー･レベルの設定はプログラムには保存されません。

Valvetronixアンプのパワー段のドライブを上げたときの、ファットで温かなサウンド（これはチューブ･アンプの傑作品に共通する音響特性）をそのまま損なうことなく、音量を様々なレベルで出力することができます。小さな部屋で演奏する場合でも、聞き手の鼓膜を傷めず、また大切な音色を損ねることなく演奏できます。

4. EXTERNAL SPEAKER OUT（エクスターナル・スピーカー・アウト）端子

ギター･スピーカー･キャビネットを接続します。

注意: 外部スピーカー端子を使用すると、内蔵のスピーカーからは音は出ません。

注意: VT15/30には、この端子は付いていません。

重要 正しく使用していただくため、以下のことを厳守してください。

a）外部スピーカーには、8Ω以外のインピーダンスのものを使用しないでください。

b）定格入力が50ワット（VT100は100ワット）以下のスピーカーを接続しないでください。この注意を無視すると、スピーカーを破損することがあります。これはお勧めしません。

c）外部スピーカーを接続するときは、必ずスピーカー･ケーブルを使用してください。ギターとアンプを接続するシールド線を使わないでください。

d) ケーブルを接続するときは、必ず電源をオフの状態で行ってください。電源をオンのままケーブルを抜き差しすると、アンプが壊れる原因となります。

5. LOOP[SEND]（ループ・センド）端子、LOOP[RETURN]（ループリターン）端子

外部エフェクターへのループ端子です。LOOP[SEND]端子は、外部エフェクターの入力へ接続します。LOOP[RETURN]端子は、外部エフェクターの出力へ接続します。

注意: VT15/30/50には、この端子は付いていません。

３つの動作モードについて

本機は、各アンプ･モデルにつき、ベーシック、エフェクテッド、ソングの各３プログラム（計66プログラム）のプリセット･プログラムを内蔵しています。これらは本機をプリセット･モードに切り替えると、[AMP]セレクターなどを使って簡単に呼び出すことができます。
また、書き替え可能な８つのチャンネル･プログラム（ユーザー･プログラム）を持ち、[BANK]スイッチや[CHANNEL]スイッチ、フット･スイッチによって切り替えることができます。

プリセット・モード（プリセット・プログラムの呼出し）

プリセット･モードでは、[AMP]スイッチ/セレクターによって、各アンプ･モデルごとの代表的なサウンドに設定されたベーシック、エフェクテッド･プリセット･プログラムや、著名なギタリストが演奏するヒット曲の音色を再現するソング･プリセット･プログラムが呼び出され、GAIN、VOLUME、TREBLE、MIDDLE、BASSやエフェクト等の設定が自動的に切り替わります。

プリセット・モードへの切り替え

PRESET LEDが消灯しているときは、プリセット･モードではありません。[PRESET]スイッチを押すとPRESET LEDが点灯し、プリセット･モードに切り替わります。

プリセット・プログラムの呼出し

PRESET LEDが点灯している状態で、[AMP]スイッチ/セレクターを操作します。トップ･パネル上のコントロール･ツマミや[EFFECTS]セレクターの位置に関係無く、各アンプ･モデルごとに設定されたプリセット･プログラムが呼び出されます。

ヒント: 22種類の各アンプ･モデルには、それぞれベーシック、エフェクテッド、ソングの３つのプリセット･プログラムが格納されています（計66プログラム）。プリセット･モードで[PRESET]スイッチを押す度にPRESET LEDの色が緑、橙、赤と変化し、プリセット･プログラムのP1･ベーシック、P2･エフェクテッド、P3･ソングが切り替わります。ソング･プリセットでは、著名なギタリストの演奏するヒット曲の音色を再現するプログラムが呼び出されます。各アンプモデルにプログラムされたヒット曲は、巻末の表をご参照ください。

マニュアル・モード

本機がマニュアル･モードのときは、通常のギター･アンプと同じ動作になります。
つまり、トップ･パネル上のすべてのセレクターやコントロール･ツマミの位置がそのままサウンドに反映されます（[EDIT]ツマミを除く）。

マニュアル・モードへの切り替え

MANUAL LEDが消灯しているときは、マニュアル・モードではありません。[MANUAL]スイッチを押すとMANUAL LEDが点灯し、マニュアル・モードに切り替わります。

注意: マニュアル・モードでは、ツマミの位置によって確定しないパラメーター（エフェクト・パラメーター、ノイズ・リダクションの設定）を変更すると、その設定は自動的に保存されます。次回マニュアル・モードに入ったときには、その設定が呼び出されます。ただし、[EFFECT]セレクターの位置が前回と変っていると、エフェクト・パラメーターは各タイプごとの初期値が読み込まれます。

チャンネル・セレクト・モード（ユーザー・プログラムの呼び出し）

チャンネル・セレクト・モードでは、[BANK]スイッチ、[CHANNEL]スイッチを押すことによって、バンクの各チャンネルごとに保存されているプログラムが呼び出され、アンプやエフェクトのすべてのパラメーターが自動的に切り替わります。

チャンネル・セレクト・モードへの切り替え

BANK、CHANNEL LEDが消灯しているときは、チャンネル・セレクト・モードではありません。[BANK]スイッチ、または[CHANNEL]スイッチを押すとBANK、CHANNEL LEDが点灯し、チャンネル・セレクト・モードに切り替わります。

チャンネルの切り替え

[CHANNEL]スイッチを押すとチャンネルが切り替わり、トップ・パネル上のセレクターやコントロール・ツマミの位置に関係無く、各チャンネルに設定されているプログラムが呼び出されます。[BANK]スイッチを押すと、バンクが切り替わり、元のバンクで選択されていたのと同じ番号のチャンネルが呼び出されます。

ヒント: リア・パネルにオプション（別売）のフット・スイッチ（VOX VFS5）を接続して使用すると、足元でバンク/チャンネルを切り替えることができます。詳しくは「フット・スイッチ（VOX VFS5）を使う」（p.18）を参照してください。

ヒント: エフェクトを無効にするときは、[BYPASS]スイッチを押します。BYPASS LEDが点灯しエフェクトがバイパスされます（リバーブを除く）。もう1度[BYPASS]スイッチを押すと、バイパスが解除されエフェクトが有効になります。バイパスの設定はモードやプログラムを切り替えたり、電源をオフにしても保持されます。

音作りと保存

音作りの方法には、作りたい音に近いプリセット・プログラムなど既存のプログラムを元にして、必要な部分を変更して目的の音を作り上げていく方法と、白紙の状態（ゼロ）から作り上げていく方法があります。

音作り

ここでは白紙の状態（ゼロ）から作る方法を説明します。

1. プリセット、またはチャンネル・セレクト・モードで任意のプログラムを選ぶか、マニュアル・モードにします。

   ヒント: ゼロから音作りをしますので、どのプログラムでもかまいません。

2. [BYPASS]スイッチを使ってエフェクトをバイパスします（BYPASS LED点灯）。
   [REVERB]ツマミを左に回しきってリバーブを無効にします。エフェクトを使用する場合は、最後に追加します。

3. [AMP]スイッチ/セレクターで使用したいアンプを選びます。

   ヒント: アンプ・モデルの詳細については「アンプ/エフェクトの説明」（p.19）を参照してください。

4. [GAIN]、[VOLUME]、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]など、トップ・パネルのツマミを調整します。

5. [TAP]スイッチを押しながら[EDIT]ツマミを操作して、ノイズ・リダクションの設定をします。この設定もプログラムに保存されます。詳細については「ノイズ・リダクションの調整」（p.16）を参照してください。

   ヒント: ノイズ・リダクションは、ギターを弾いていないときにノイズが気にならない程度に調整します。

6. エフェクトを加えるには、[BYPASS]スイッチをもう一度押してバイパスを解除します（BYPASS LED消灯）。

7. 任意のエフェクトを選択し調整します。
   例えば、ディレイを加える場合、[EFFECT]セレクターを回して“DELAY”を選択します。もともと“DELAY”になっていた場合は、[EFFECT]セレクターを回して1度他のエフェクト・タイプに切り替えてから、再度“DELAY”を選択します。
   [TAP]スイッチや[EDIT]ツマミを使って、ディレイ・タイムやディレイ・ミックス（ディレイ音のミックス量）を調整します。

DELAY TIME:	[TAP]スイッチを2回押す（押した間隔でタイムを設定）か、[TAP]スイッチを押しながら[EDIT]ツマミを回す。（**EDIT 2**）
DELAY MIX:	（何も押さずに）[EDIT]ツマミを回す。（**EDIT 1**）

DELAY FEEDBACK:　[BYPASS]スイッチを押しながら[EDIT]ツマミを回す。（EDIT 3）

ヒント: エフェクト・タイプの詳細については「アンプ/エフェクトの説明」（p.19）を参照してください。

8. リバーブを使用するときは、[REVERB]ツマミを操作してリバーブのミックス量を調整します。

ノイズ・リダクションの調整

ノイズを抑える効果を設定します。

注意: ノイズ・リダクションは、プログラムごとに設定します。プリセット/チャンネル・セレクト・モードでは、保存しないで他のプログラムやマニュアルに切り替えたり、電源を切ると変更した内容は消えてしまいます。

1. [BYPASS]スイッチを押してBYPASS LEDを点灯させます。

2. [TAP]スイッチを押しながら[EDIT]ツマミを回してノイズ・リダクションの感度を調整します。右に回すほど、ノイズを抑える効果が強くなります。左に回しきるとノイズ・リダクションがオフになり、効果がなくなります。

注意: 使用するギターによっては、ノイズ・リダクションの感度を上げすぎると、音が途切れることがあります。

3. エフェクトを使用する場合は、[BYPASS]スイッチを押してBYPASS LEDを消灯します。

プログラムを保存する

気に入ったサウンドに仕上がったら保存（ライト）します。

ヒント: 同じバンク内のチャンネルに保存する場合は、手順3から操作を行ないます。

1. [BANK]スイッチを0.5秒以上押し続けます。BANK LEDが点滅します。

2. [BANK]スイッチを押して保存先のバンクを選びます。

ヒント: ライト操作をキャンセルする場合は、ここで[TAP]スイッチを押します。LEDの点滅が停止し、元のモードに戻ります。

3. 保存先の[CHANNEL]スイッチを2秒以上（LEDの点滅が点灯に変わるまで）押し続けます。これでプログラムがチャンネルに保存され、保存先のバンク/チャンネルに切り替わります。

注意: プログラムは上書き保存されます。手順3で選んだチャンネルの元のプログラムは消去されます。

注意: [BYPASS]スイッチの設定は、プログラムには保存されません。

注意: プリセット/チャンネル・セレクト・モードで音作りをしている場合は、保存しないで他のプログラムやマニュアルに切り替えたり電源を切ると、音作りをしていた内容は消えてしまいます。

プログラムに保存されている設定（オリジナル・バリュー）を確認する

プログラムに保存されているパラメーターの値は、オリジナル・バリュー表示によって確認できます。
ツマミでパラメーターの値を変更しているとき、その値がプログラムに保存されている値（オリジナル・バリュー）と一致すると、プリセット・モード時はPRESET LEDが、チャンネル・セレクト・モード時は選択されているチャンネルのLEDが一瞬消灯します。

ヒント: 気に入ったプログラムを見つけ、それがどんな設定になっているか知りたい場合は、このオリジナル・バリュー表示を活用するとよいでしょう。

注意: トップ・パネルの[MASTER]ボリュームとリア・パネルの[POWER LEVEL]コントロールはプログラムされないため、オリジナル・バリュー表示は行ないません。また、マニュアル・モード時はオリジナル・バリュー表示は行ないません。

工場出荷時の状態に戻すには

本機のすべての設定を工場出荷時の状態に初期化する方法を説明します。

注意: この操作を完了すると、チャンネルに保存してあったプログラムはすべて消去され、出荷時のプログラムに初期化されます。

注意: マニュアル・モードで行なったエフェクトやノイズ・リダクションの設定も、すべて消去されます。

1. 電源を一旦オフにします。

2. [CH1]、[CH4]の２つのスイッチを押しながら電源をオンにします。BANK、CHANNELのLEDが点滅し始めたら、押していたスイッチを離します。

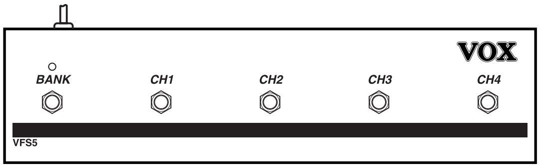
ヒント: 初期化の作業を中止するときは、ここで[TAP]スイッチを押します。

3. [BYPASS]スイッチを押すと、BANK、CHANNELのLEDが点滅から点灯に変り、初期化が始まります。１～２秒ほどで初期化が完了し、プリセット・モードに切り替わります。

注意: 初期化中は、絶対に電源をオフにしないでください。

フット・スイッチ（VOX VFS5）を使う

オプション（別売）のフット・スイッチ（VOX VFS5）をリア・パネルの[FOOT SW]端子に接続すると、バンク/チャンネルの切り替えや、エフェクト・バイパスのオン/オフを足元でコントロールできるようになります。



注意: FOOT SW端子への接続や取り外しは、電源オフの状態で行なってください。電源オンのまま抜き差しすると、誤動作や故障の原因となります。

注意: 複数のスイッチを同時に押さないでください。誤動作する場合があります。

チャンネル・セレクト・モードでの動作

バンク/チャンネルの切り替え（BANK、CH1～4スイッチ）

チャンネル・セレクト・モードでVFS5のスイッチを押すと、バンク/チャンネルが切り替わります。

注意: プリセット/マニュアル・モードでVFS5のスイッチを押しても、チャンネル・セレクト・モードには切り替わりません。また、CH1～4スイッチを押し続けてもプログラムは保存されません。

注意: トップ・パネルの操作は、VFS5のLEDには反映されません。

プリセット/マニュアル・モードでの動作

タップ操作によるスピード/タイム設定（CH2スイッチ）

プリセット/マニュアル・モードでVFS5のCH2スイッチを押すと、モジュレーション系エフェクトのスピードとディレイ系エフェクトのタイムを設定できます。2回押した間隔がタイムとして設定されます。

注意: エフェクト・バイパス中（トップ・パネルのBYPASS LEDが点灯中）は、CH2スイッチを操作しても動作しません。

エフェクト・バイパスのオン/オフ（CH3スイッチ）

プリセット/マニュアル・モードでVFS5のCH3スイッチを押すと、押すたびにエフェクト・バイパスのオン/オフが切り替わります。

リバーブのオン/オフ（CH4スイッチ）

プリセット/マニュアル・モードでVFS5のCH4スイッチを押すと、押すたびにリバーブのオン/オフが切り替わります。

注意: モードやプログラムの切り替え、電源オフ、[REVERB]コントロールの操作を行うと、リバーブがオンになります。

注意: リバーブがオフの状態でプログラムを保存（ライト）すると、リバーブのミックス量が0の状態で保存されます。

アンプ/エフェクトの説明

ここでは22種類のアンプ・モデルとエフェクトについて説明します。

アンプ・モデル

ここでは、素晴しいサウンドを誇る数々のアンプの中から、Valvetronixアンプのために特別に選んだ22種類のアンプ・モデルについて説明します。モデルとなるアンプを選択するにはかなりの時間を費やし、スタッフ同士の意見交換、プロ・ミュージシャンやギター専門家のアドバイス、数限りない試聴と試奏を繰り返しました。こうして選んだアンプは、ベストの中のベストであるだけでなく、まったく素朴でクリーンなサウンドから、とてつもなくオーバードライブのかかったサウンドまで、幅広い範囲の音色を網羅しています。

Bank A

A-1: BOUTIQUE CL

完全受注生産されるオーバードライブ・スペシャルと名付けられた、高級アンプのクリーン・チャンネルをモデリングしました。丸みのある美しい低域、立ち上がりの早いミッド・レンジのアタック、甘美なトレブル音は、シングル・コイル・ピックアップに最適です。

A-2: DELUXE TWEED

このアメリカ製1x12"ハンド・ワイアードのチューブ・コンボ・アンプは、歴史的に最も敬愛されているクラブ/スタジオ・アンプの一つです。12Wの暖かく、タッチに敏感に反応する音色が、ツイード仕上げの単板パイン材キャビネットより出力されます。

A-3: SUPER 4X10

1963〜1968年に生産され、4x10"スピーカーを搭載したこのアメリカ製のコンボ・アンプは、ビッグなクリーン・サウンドとドライブしたときの暖かくハスキーなサウンドで知られています。

A-4: AC15TB

AC15の低出力パワー・アンプの甘美で理想的な音色特性と、AC30のトップ・ブースト・チャンネルの自由度の高い音色を組み合わせた、モダンなアンプです。

A-5: AC30HH

AC30HHは、VOXの50周年を記念して発売された、ハンド・ワイアードのオール・チューブ・アンプ・ヘッドです。このアンプは、煌めくチャイムのようなクリーン・サウンド、そしてクリーミーで暖かみのあるオーバードライブ・サウンドで他の追随を許しません。

A-6: EXPRESS TRAIN

$25,000を超える価値のある、ウッド仕上げの30Wブティック・アンプ・ヘッドのモデリングです。このアンプはガラスのような煌めくクリーン・トーンと、ゲインを上げたときは驚くほど音楽的にスイートなオーバードライブ・サウンドを提供します。

A-7: AC50CP2

VOX AC50CP2クラシック・プラス・コンボは、VOXからのオール・チューブ・アンプの新しいコンセプトです。本機では、よりハイゲインなチャンネル2で“Fat Switch”をオフにしてモデリングしました。

A-8: UK 25TH

UK製の100Wヘッドを基に、驚くべきトーンとスラッシュなリズム、そしてシルクハット好きで知られる著名ギタリストのために作られました。貴方に極上のメタル・トーンの欲求があるなら、このアンプは最高のチョイスとなります。

A-9: US '90S

ミシシッピで作られたこの120Wの2チャンネル・ヘッドは、“Brown Sound”で著名な伝説的ギター・ヒーローのためにデザインされました。このアンプ・モデルでは、タッピング奏法に最適なハイゲイン・サウンドをフィーチャーしています。

A-10: UK MODERN

パワフルなトーンの４チャンネル仕様が自慢の２００７年にリリースされたイギリス製100Wアンプ・ヘッドのモデリングです。本機では、タイトな低音と鮮明なハイゲイン・メタルサウンドが得られる“Overdrive1”チャンネルを採用しました。

A-11: BOUTIQUE METAL

100Wのドイツ製4チャンネル・アンプ・ヘッドより放出される破壊的なハイゲイン・サウンドをモデリングしました。本機では、ドロップD・メタル・チューニングでプレイしたときに驚くべきタイトさをもたらす“Heavy”チャンネルをチョイスしました。

Bank B

B-1: MODDED CL

アメリカ製のブラック・パネルのアンプを改造したものをモデリングしています。この改造では元々の素晴しいアンプに、更なるスムーズさと更なる暖かみが加えられています。

B-2: TWEED 2X12

このアメリカ製ツイード地の57年製2x12"コンボ・アンプは、クラシック・ロックやブルース、カントリーに最適な、リッチなクリーン・トーンで知られています。ボリュームを上げるとパワフルでパンチの効いたオーバードライブ・サウンドを生み出すことも可能。

B-3: TWEED 4X10

もともとベース・ギター用に設計された1959年製4x10"コンボ・アンプをモデリングしました。スムーズで抜けの良いオーバードライブ・サウンドで、ピッキングの強弱やギターのボリュームに敏感に反応します。

B-4: AC15

コンパクトなキャビネット、パワー、そして素晴しい音色で、当時人気のあったブリティッシュ・バンドと共に大ヒットになった、1962年製VOX AC15（1x12"、15W）のチャンネル2をモデリングしました。

B-5: AC30TB

1964年以降の「トップ・ブースト」回路を標準仕様として搭載したAC30のモデリングです。スムーズかつ繊細なトップ・エンドを持ち、威厳のある野太いオーバードライブや、豊かで華やかなクリーン・サウンドを生み出します。

B-6: BOUTIQUE OD

完全受注生産されるオーバードライブ・スペシャルと名付けられた、100W高級アンプのオーバードライブ・チャンネルをモデリングしました。[GAIN]コントロールを上げたときの素晴しいサスティーンはスムーズでソウルフルです。

B-7: AC30BM

伝説的な50年代のオリジナルAC30のあらゆるニュアンスを忠実に再現した、AC30BMブライアン・メイ・シグネイチャー・モデルをモデリングしました。本機では、アンプをオーバードライブさせ、トレブル・ブースターをオンにしたスクリーミング・サウンドをお届けします。

B-8: UK '80S

1983年、UK製100Wマスター・ボリューム付きシングル・チャンネルのヘッドをモデリングしました。ゲイン・コントロールをフルアップすると、80年代を制覇した、うなるような太いハード・ロックやヘビー・メタル・サウンドが得られます。

B-9: CALI METAL

猛獣のごときハイゲイン・アンプのモダン・ハイゲイン・チャンネルをモデリングしました。深く、ルーズなローエンド、きらめく高域、モンスターのようなゲインは、できるだけ低くチューニングしたギターや7弦ギターを振るったメタル・アクトに最適です。

B-10: UK '90S

100Wのモダン・アンプのハイゲイン・チャンネルをモデリングしました。個々の音に輪郭を持ちながらも、かなり攻撃的で鼻息の荒いモンスター・サウンドに仕上がっています。

B-11: METAL BULL

3チャンネル仕様で多才なゲイン・スイッチ群によりワイドでバラエティに富んだサウンドを持つ、カリフォルニア産、アンプ・ヘッドのモデリングです。本機では、究極のハイゲイン・トーンが得られるリード・チャンネルをモデリングしています。

エフェクト

本機では最もポピュラーな11種類のエフェクト（複合エフェクトを含む）とリバーブを用意しています。モジュレーション･エフェクトのSPEEDパラメーターや、ディレイのTIMEパラメーターを、[TAP]スイッチを2度押すことで簡単に設定できます。また[EDIT]ツマミでおもなパラメーターを設定できるほか、[TAP]スイッチや[BYPASS]スイッチをホールド（押し続けること）しながら[EDIT]ツマミを回すことで、更に細かな設定が可能です。

TYPE	TAP	EDIT1 [EDIT]	EDIT2 [TAP+EDIT]	EDIT3 [BYPASS+EDIT]
DELAY	TIME	MIX	TIME	FEEDBACK
TAPE ECHO	TIME	MIX	TIME	FEEDBACK
CHORUS+DELAY	DELAY TIME	DELAY MIX	DELAY TIME	DELAY FEEDBACK
COMP+CHORUS	CHORUS SPEED	COMP SENS	CHORUS SPEED	CHORUS MIX
OCTAVE+CHORUS	CHORUS SPEED	OCTAVE MIX	CHORUS SPEED	CHORUS MIX
CHORUS	SPEED	DEPTH	SPEED	MIX
FLANGER	SPEED	DEPTH	SPEED	RESONANCE
PHASER	SPEED	DEPTH	SPEED	RESONANCE
ROTARY	SPEED	DEPTH	SPEED	----
TREMOLO	SPEED	DEPTH	SPEED	----
PITCH	PITCH –12, –7, –5, 0, 5, 7, 12	MIX	PITCH	----

注意: エフェクト･パラメーターの設定はバイパス･オフ（BYPASS LED消灯）の状態で行なってください。バイパス･オン（BYPASS LED点灯）時に[TAP]スイッチを押しながら[EDIT]ツマミを回すと、エフェクト･パラメーターではなくノイズ･リダクションの感度調整となります。

ヒント: ユーザー･プログラムでエフェクトを使用しないときは、エフェクトのタイプをDELAY、またはTAPE ECHOに設定してください。そして、[EDIT]ツマミを左に回しきりMIXを最小にしてください。

DELAY

遅延素子にバケット･ブリッジ･デバイス（BBD）を使用したアナログ･ディレイのモデリングです。音質的にはLo-Fiですが、その暖かみのあるサウンドで評判です。パラメーターは後述のTAPE ECHOと同じです。

TAPE ECHO

評判の高いアナログ･テープ･エコーのモデリングです。もともとエコーは再生ヘッドで作られ、ディレイ･タイムはモーターのスピードを変化させて設定します。

TAP	“TIME”	23～1460[ms]の範囲でディレイ･タイムを設定します。
EDIT1[EDIT]	“MIX”	ディレイ音のミックス量を調整します。
EDIT2[TAP+EDIT]	“TIME”	ディレイ･タイムをツマミで細かく設定する場合に使用します。
EDIT3[BYPASS+EDIT]	“FEEDBACK”	フィードバックの量を調整します。

CHORUS

スタンダードの豊かなアナログ・コーラス・ユニットのモデリングです。

TAP	“SPEED”	モジュレーションのスピードを0.1～10[Hz]の範囲で調整します。
EDIT1 [EDIT]	“DEPTH”	モジュレーションの深さを調整します。
EDIT2 [TAP+EDIT]	“SPEED”	スピードをツマミで細かく設定する場合に使用します。
EDIT3 [BYPASS+EDIT]	“MIX”	エフェクト音のミックス量を調整します。

ヒント: CHORUS+DELAYのコンビネーション・エフェクトではSPEED、DEPTH、MIXパラメーターは調整できません（最適な値に設定されています）。COMP+CHORUS、OCTAVE+CHORUSのコンビネーション・エフェクトでは、DEPTHパラメータは調整できません（最適な値に設定されています）。

COMP

パーカッシブなクリーン・サウンドで人気の高いコンプレッサー・ペダルをモデリングしました。

EDIT1 [EDIT]	“SENS”	感度を調整します。右に回すほどコンプレッション、サスティーンの量が増加します。左に回しきるとオフになります。

ヒント: COMP+CHORUSのコンビネーション・エフェクトでは、EDIT3 [BYPASS+EDIT]でツマミを左に回しきると、CHORUSがオフになりCOMP単体でご使用になれます。

OCTAVE

1オクターブ低い音を作り出し、原音に混ぜ合わせることによって音に重圧間を与えるペダルのモデリングです。

EDIT1 [EDIT]	“MIX”	1オクターブ低い音のミックス量を調整します。

注意: このタイプのエフェクトは、あくまで単音に対してのみ効果的です。コードを弾いてしまうと収拾がつかなくなります。

ヒント: OCTAVE+CHORUSのコンビネーション・エフェクトでは、EDIT3 [BYPASS+EDIT]でツマミを左に回しきるとCHORUSがオフになり、OCTAVE単体でご使用になれます。

FLANGER

「両手タッピングのゴッドファーザー」と多くの人が崇める現代の有名ギタリストを生んだ、真にクラシックなアナログ・フランジャーのモデリングです。

TAP	“SPEED”	モジュレーションのスピードを0.1～10[Hz]の範囲で調整します。
EDIT1 [EDIT]	“DEPTH”	モジュレーションの深さを調整します。
EDIT2 [TAP+EDIT]	“SPEED”	スピードをツマミで細かく設定する場合に使用します。
EDIT3 [BYPASS+EDIT]	“RESONANCE”	レゾナンスの量を調整します。

PHASER

バナナ色のボックスに入った人気の高いアナログ・フェイザーのモデリングです。

TAP	“SPEED”	モジュレーションのスピードを0.1～10[Hz]の範囲で調整します。
EDIT1[EDIT]	“DEPTH”	モジュレーションの深さを調整します。
EDIT2[TAP+EDIT]	“SPEED”	スピードをツマミで細かく設定する場合に使用します。
EDIT3[BYPASS+EDIT]	“RESONANCE”	レゾナンスの量を調整します。

ROTARY

ロータリー・スピーカーのモデリングです。

TAP	“SPEED”	モジュレーションのスピードを0.8～10[Hz]の範囲で調整します。
EDIT1[EDIT]	“DEPTH”	モジュレーションの深さを調整します。
EDIT2[TAP+EDIT]	“SPEED”	スピードをツマミで細かく設定する場合に使用します。

TREMOLO

US製アンプに搭載されている評判の高いトレモロ回路のモデリングです。

TAP	“SPEED”	モジュレーションのスピードを2.5～10[Hz]の範囲で調整します。
EDIT1[BYPASS+EDIT]	“DEPTH”	トレモロの深さを調整します。
EDIT2[TAP+EDIT]	“SPEED”	スピードをツマミで細かく設定する場合に使用します。

PITCH

上下1オクターブの変化幅を持つ和音入力も可能なピッチ・シフターです。

TAP	“PITCH”	ピッチを設定します。TAPを押す度にピッチ・シフト量が-12、-7、-5、0、5、7、12となります。
EDIT1[EDIT]	“MIX”	ダイレクト音とエフェクト音のバランスを調整します。
EDIT2[TAP+EDIT]	“PITCH”	-12～12の範囲でピッチを半音単位で調整します。

リバーブ

ギターアンプ内蔵のスプリング・リバーブを再現しました。[REVERB]ツマミでリバーブ音のミックス量を調整します。リバーブを使用しない場合は、[REVERB]ツマミを左に回しきってミックス量を0にします。

注意: 本機のリバーブは、他のエフェクトとは独立して動作しています。[BYPASS]スイッチを押してもリバーブはバイパスされません。

故障とお思いになる前に

1.[POWER]スイッチをONにしても電源が入らない

- リア·パネルのAC電源端子に電源コードが接続されていますか?
- コンセントに電源コードが接続されていますか?
- コンセントが故障していませんか?
- 電源コードが損傷していませんか?

2.アンプから音が出ない

- ギターのボリュームを絞っていませんか?
- ギター·シールドが正しく接続されていますか?
- ギター·シールドが断線していませんか?
- トップ·パネルの[MASTER]ボリュームが小さい値になっていませんか?
- トップ·パネルのPHONES端子にヘッドホンが接続されていませんか?
  その場合は接続を外してください。
- リア·パネルの[EXTERNAL SPEAKER OUT]端子にケーブルが接続されていませんか?
  (VT50/VT100の場合)
  外部スピーカーを使用しない場合は接続を外してください。
  接続した外部スピーカーから音が出ない場合は、スピーカー·ケーブル、外部スピーカーが断線したり故障していないかを確認してください。
- [GAIN]、[VOLUME]、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]コントロールの設定を確認してください。アンプ·モデルによっては[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]コントロールの値が小さいと、オリジナル·アンプの回路と同様、アンプから音が出ない場合があります。
- マニュアル·モードの場合(MANUAL LED点灯)、[GAIN]、[VOLUME]、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]コントロールが0または最小値になっていませんか?
- リア·パネルのLOOP[RETURN]端子だけにケーブルを接続していませんか?(VT100の場合)
  LOOP[SEND]端子に接続したケーブルは、外部エフェクトに接続し、そのエフェクターの出力をLOOP[RETURN]端子に接続してください。
  外部エフェクトの出力レベルを適度な音量に調節してください。

3.アンプの音量が十分出ない

- ギターのボリュームを絞っていませんか?
- [MASTER]ボリュームが下がっていませんか?
- リア·パネルの[POWER LEVEL]を絞っていませんか?
- [GAIN]、[VOLUME]、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]コントロールの設定を確認してください。アンプ·モデルによっては[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]コントロールの値が小さいと、オリジナル·アンプの回路と同様、アンプから音が出ない場合があります。
- マニュアル·モードの場合(MANUAL LED点灯)、[GAIN]、[VOLUME]、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]コントロールが小さい値になっていませんか?

4.PHONES端子から音が出ない

- トップ·パネルの[MASTER]ボリュームが小さい値になっていませんか?
- 音がアンプから出力されているか確認してください。
  このとき、PHONES端子にヘッドホンやケーブルが接続されていると内蔵スピーカーから音が出ませんので、PHONES 端子への接続を外してください。
  アンプからサウンドが出力されていない場合は、前述の「アンプから音がでない」を参照してください。アンプからサウンドが出力されている場合は、ヘッドホン、接続ケーブルが故障/断線していないか確認してください。

5.エフェクトがかからない

- BYPASS LEDが点灯していませんか?
  点灯している場合、エフェクトがバイパスされています。[BYPASS]スイッチを押してバイパスを解除してください。BYPASS LEDは消灯します。
- [EDIT]ツマミの設定が小さい値になっていませんか?
  [EDIT]ツマミを調整してください。

仕様

アンプ・モデル数: 22

エフェクト数

エフェクト・タイプ数: 11
ノイズ・リダクション: 1
リバーブ: 1

プログラム数

プリセット: 66
ユーザー: 8(2バンク ×4チャンネル)

入出力端子

トップ・パネル: INPUT端子 ×1、PHONES端子 ×1
リア・パネル: FOOT SW端子 ×1
EXTERNAL SPEAKER OUT端子 ×1(VT50/VT100のみ)
LOOP SEND端子 ×1、LOOP RETURN端子 ×1(VT100のみ)

パワーアンプ出力

VT15: 最大15W RMS@ 4Ω
VT30: 最大30W RMS@ 4Ω
VT50: 最大50W RMS@ 8Ω
VT100: 最大100W RMS@ 8Ω

スピーカー

VT15: VOXオリジナル(8inch 4Ω) ×1
VT30: VOXオリジナル(10inch 4Ω) ×1
VT50: VOXオリジナル(12inch 8Ω) ×1
VT100: VOXオリジナル(12inch 16Ω) ×2

信号処理

A/D変換: 24bit、D/A変換: 24bit、サンプリング周波数: 44.1KHz

電源: 100VAC、50/60Hz

消費電力

VT15: 28 W
VT30: 40 W
VT50: 57 W
VT100: 115 W

外形寸法(W × D × H)

VT15: 428 × 224 × 395 mm
VT30: 456 × 224 × 430 mm
VT50: 578 × 265 × 485 mm
VT100: 684 × 268 × 553 mm

重量

VT15: 10 kg
VT30: 12 kg
VT50: 20 kg
VT100: 28.5 kg

付属品: 電源コード

オプション(別売): フット・スイッチ(VOX VFS5)

※ 仕様および外観は改良のため予告無く変更される場合があります。

ソング・プログラム・リスト

プリセット・モード P3: RED

アンプ A: GREEN	ソング・タイトル
Boutique CL	Message In A Bottle
Deluxe Tweed	Sultans Of Swing
Super 4x10	Pride And Joy
AC15TB	Smoke On The Water
AC30HH	Still Got The Blues
Express Train	Tush
AC50CP2	Paranoid
UK 25th	Sweet Child O'Mine
US ’90s	Hot for Teacher
UK Modern	Surfing With The Alien
Boutique Metal	For The Love Of God

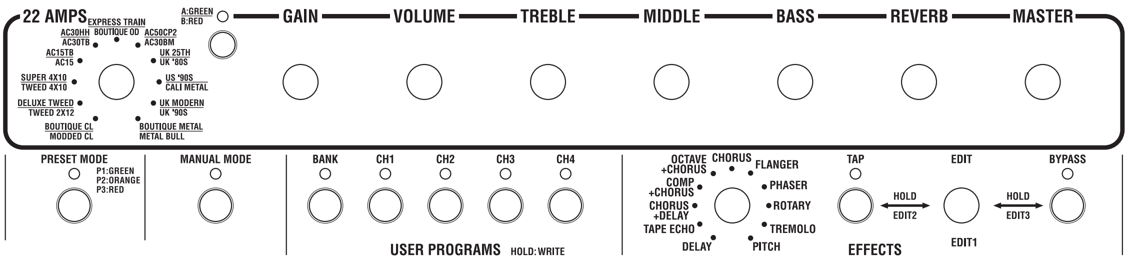
アンプ B: RED	ソング・タイトル
Modded CL	Pride (In The Name Of Love)
Tweed 2x12	Crossroads
Tweed 4x10	Jessica
AC15	Day Tripper
AC30TB	Layla
Boutique OD	Free Bird
AC30BM	Tie Your Mother Down
UK ’80s	Walk This Way
Cali Metal	The Trooper
UK ’90s	Smells Like Teen Spirit
Metal Bull	Enter Sandman

※ 実際のギタリストが曲中で使用している機材とは異なる場合があります。

プログラム・シート

設定をメモするためのシートです。好みの音が作れたらその設定を書き留めましょう。
下のプログラム・シートはコピーして使用することをおすすめします。
NRやPOWER LEVELコントロール（リア・パネル）の設定も忘れずに書き留めてください。

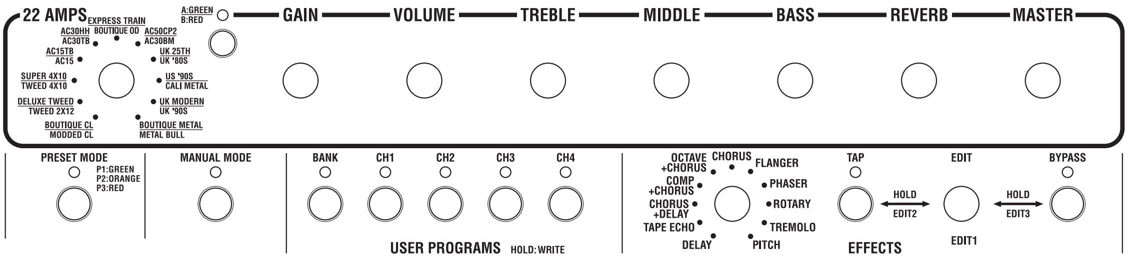
PROGRAM NAME



EDIT2(TAP + EDIT): /TAP	EDIT3(BYPASS + EDIT):	NR (NOISE REDUCTION):	POWER LEVEL

NOTE:

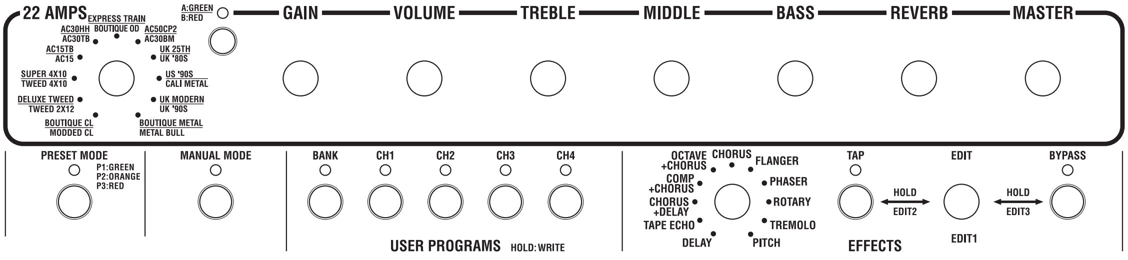
PROGRAM NAME



EDIT2(TAP + EDIT): /TAP	EDIT3(BYPASS + EDIT):	NR (NOISE REDUCTION):	POWER LEVEL

NOTE:

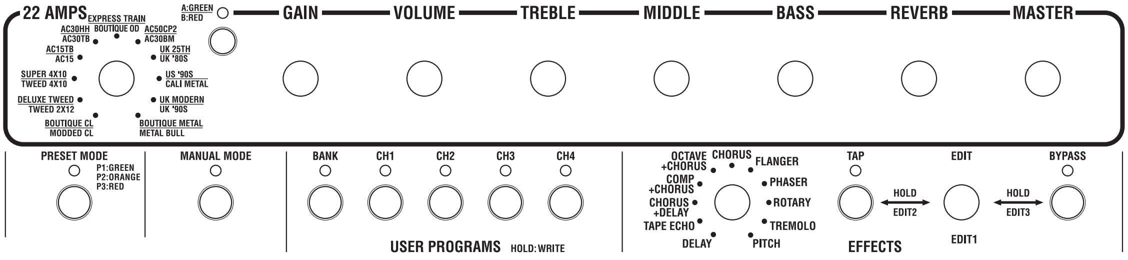
PROGRAM NAME



EDIT2(TAP + EDIT): /TAP	EDIT3(BYPASS + EDIT):	NR (NOISE REDUCTION):	POWER LEVEL

NOTE:

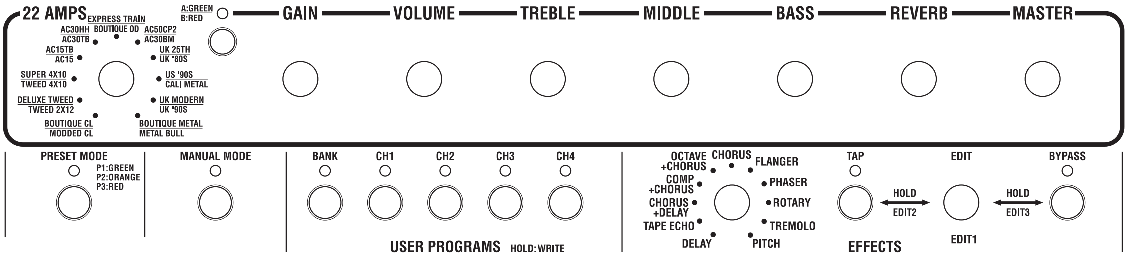
PROGRAM NAME



EDIT2(TAP + EDIT): /TAP	EDIT3(BYPASS + EDIT):	NR (NOISE REDUCTION):	POWER LEVEL

NOTE:

PROGRAM NAME



EDIT2(TAP + EDIT): /TAP	EDIT3(BYPASS + EDIT):	NR (NOISE REDUCTION):	POWER LEVEL

NOTE:

保証規定（必ずお読みください）

本保証書は、保証期間中に本製品を保証するもので、付属品類（ヘッドホンなど）は保証の対象になりません。保証期間内に本製品が故障した場合は、保証規定によって無償修理いたします。

1. 本保証書の有効期間はお買い上げ日より１ケ年です。
2. 次の修理等は保証期間内であっても有償となります。
   - 消耗部品（電池、スピーカー、真空管、フェーダーなど）の交換。
   - お取扱い方法が不適当のために生じた故障。
   - 天災（火災、浸水等）によって生じた故障。
   - 故障の原因が本製品以外の他の機器にある場合。
   - 不当な改造、調整、部品交換などにより生じた故障または損傷。
   - 保証書にお買い上げ日、販売店名が未記入の場合、または字句が書き替えられている場合。
   - 本保証書の提示がない場合。

   尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても、修理した日より３ケ月以内に限り無償修理いたします。
3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only in Japan.
4. お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証は引き続きお使いいただけます。詳しくは、サービス･センターまでお問い合わせください。
5. 修理、運送費用が製品の価格より高くなることがありますので、あらかじめサービス･センターへご相談ください。発送にかかる費用は、お客様の負担とさせていただきます。
6. 修理中の代替品、商品の貸し出し等は、いかなる場合においても一切行っておりません。

本製品の故障、または使用上生じたお客様の直接、間接の損害につきましては、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

本保証書は、保証規定により無償修理をお約束するためのもので、これよりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

■お願い

1. 保証書に販売年月日等の記入がない場合は無効となります。記入できないときは、お買い上げ年月日を証明できる領収書等と一緒に保管してください。
2. 保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

保証書

本保証書は、上記の保証規定により無償修理をお約束するものです。

製品名（ご記入ください）　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

お買い上げ日　　　年　　月　　日

販売店名

VT15/VT30/VT50/VT100

アフターサービス

■ 保証書

本製品には、保証書が添付されています。
お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。
なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

■ 保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

■ 保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■ 保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（電子回路などのように機能維持のために必要な部品）の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品（パネルなど）の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめサービス・センターへお問い合わせください。

■ 修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。
それでも異常があるときは、サービス・センターへお問い合わせください。

■ 修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ ご質問、ご相談について

修理についてのご質問、ご相談は、サービス・センターへお問い合わせください。
商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

株式会社コルグ

お客様相談窓口 TEL 03（5355）5056

● サービス・センター：　〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-15-12
TEL 03(5355)3537　FAX 03(5355)4470

輸入販売元: KORG Import Division
〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2
URL: http://www.korg.co.jp/KID/

VOX AMPLIFICATION LTD.　9 Newmarket Court, Kingston, Milton Keynes, MK10 OAU, UK　http://www.voxamps.com/

©2008 VOX AMPLIFICATION LTD.